

馬鈴しょチップ用新品種 北育33号のご紹介

畑作物水稻開発課

ホクレンが取り組んでいる 馬鈴しょの品種開発目標

- 近年、特に注力しているのは3点
 - 気候変動への対応
 - ジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性
 - 人手不足への対応
 - ジャガイモYウイルス抵抗性品種の開発
(北育33号は抵抗性品種)

北育33号のご紹介の前に ジャガイモYウイルスとは

- 北海道で発生しているウイルスの一つ。最も被害が大きい。
- 感染すると50%以上の減収
- 変異により、複数の系統がある
- 系統や感染した品種などにより症状が異なる
- 感染率が高いと、種いもとして流通できない



縮小する種いも生産

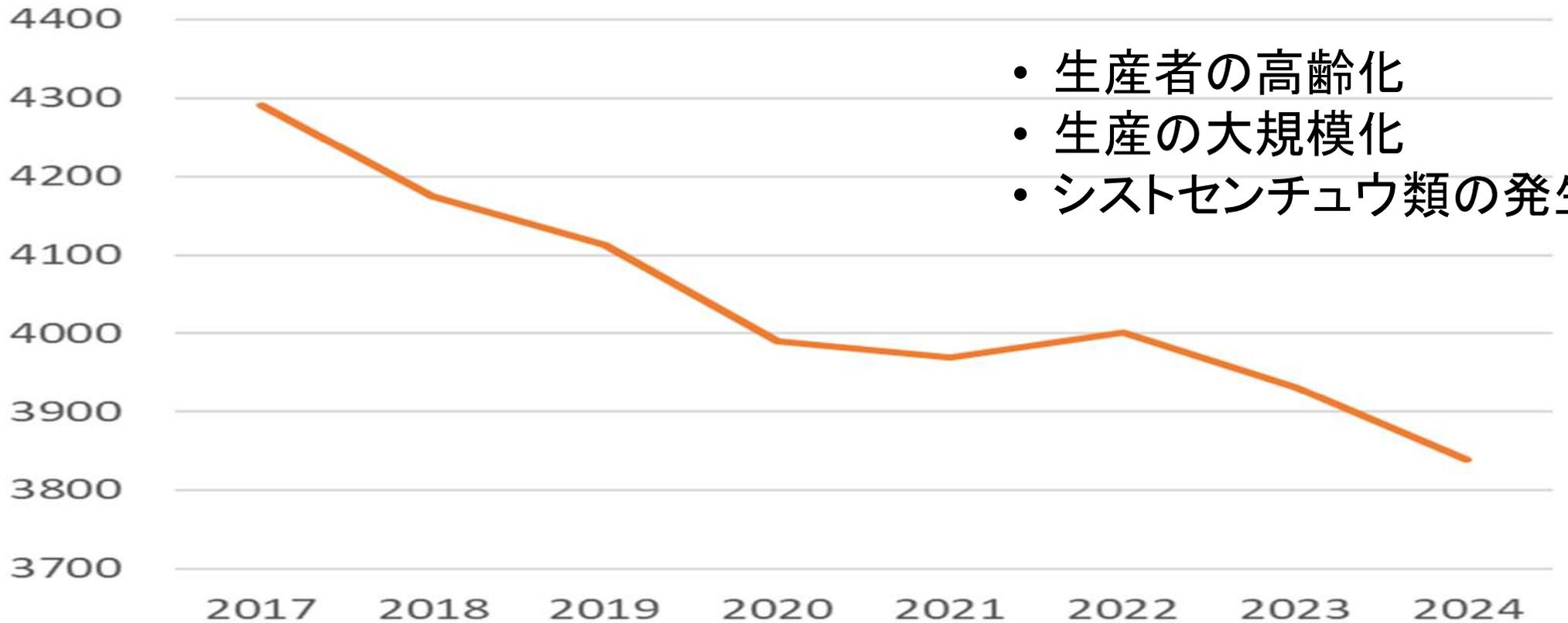
種ばれいしょほ場合合格面積（北海道）

(ha)

4400
4300
4200
4100
4000
3900
3800
3700

2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024

- 生産者の高齢化
- 生産の大規模化
- シストセンチュウ類の発生



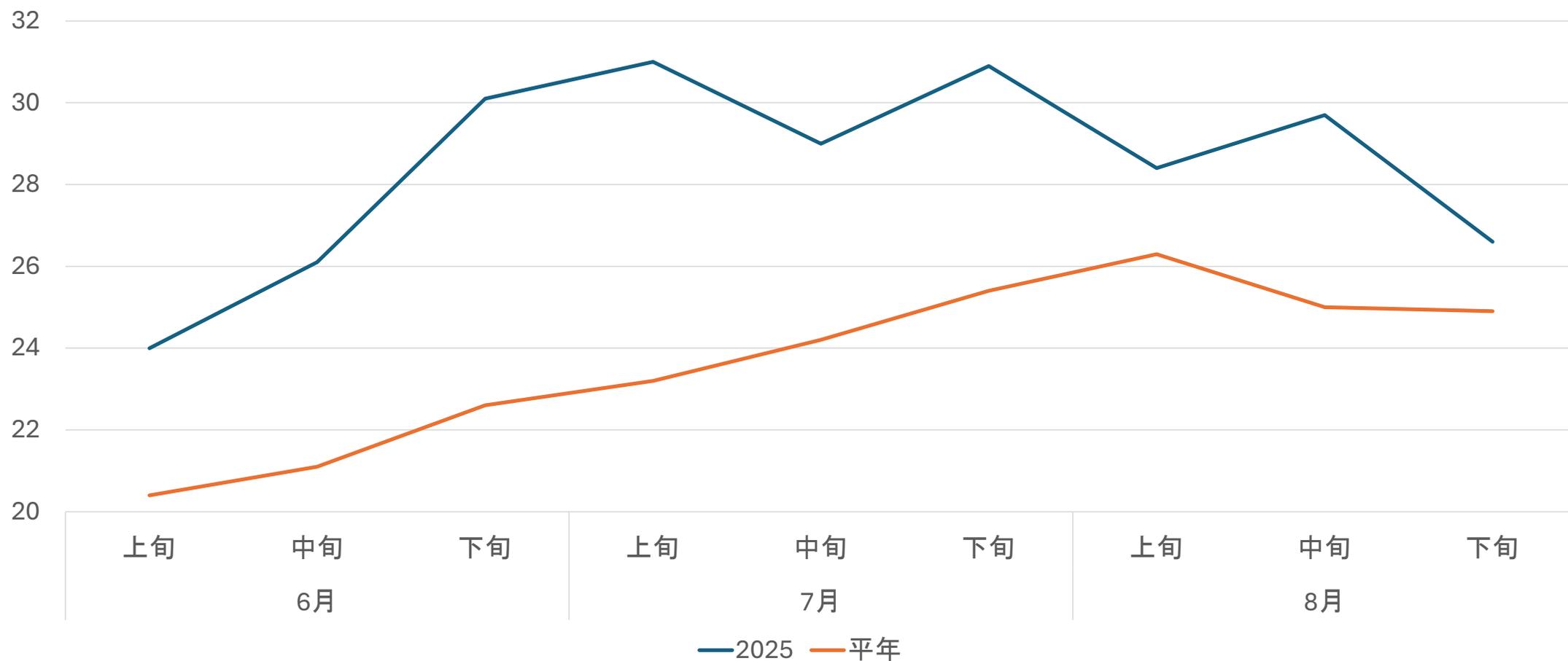
種いも生産は重労働

- 種いもの準備
 - 抜き取りに備え、いも切りを手で行うことが多い
- ウイルス罹病株など異常株の抜き取り
 - 圃場を歩き、異常株を発見し、抜き取って持ち出す。
- 6～7月に3回の圃場検査を受検
- 収穫後に生産物検査を受検

高温の影響を受けるのは植物だけではない

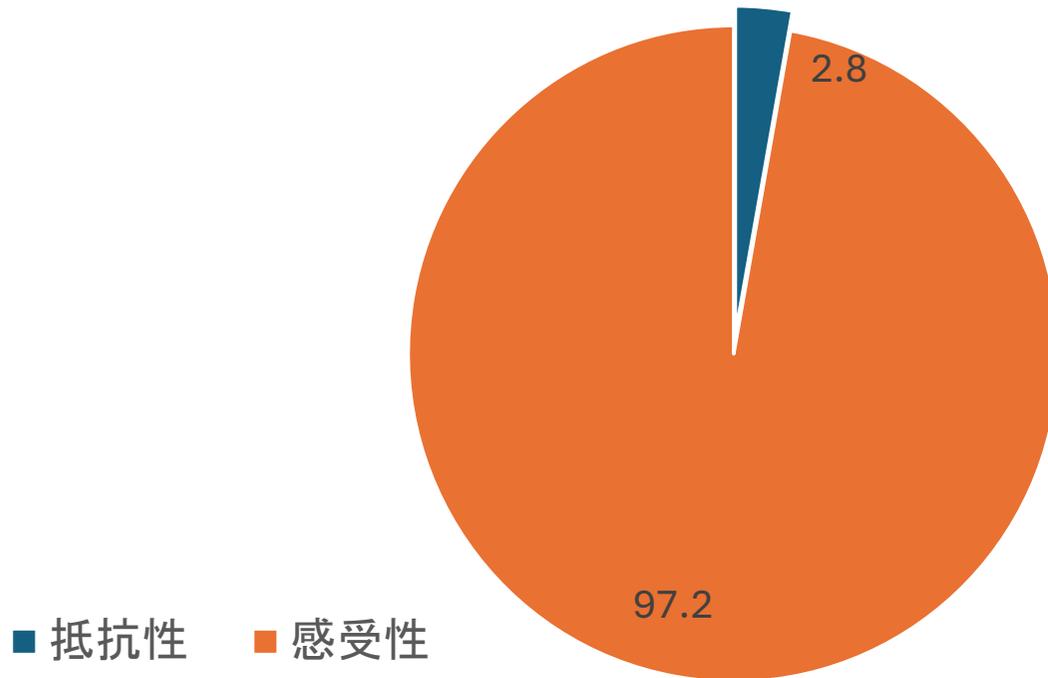
帯広市における旬ごとの最高気温経過

(°C)



負担軽減のため抵抗性品種が必要

ジャガイモYウイルス抵抗性品種の作付け割合



2025年に配布された原原種から算出

- 北海道においては、食用・加工用では普及品種がほぼない状況。
- 抵抗性品種の種いも生産では抜き取りの労力低減
- 感染源が減少することで他の品種への感染減

品種候補のご紹介 北育33号

- 種いも生産をとりまく環境から、ジャガイモYウイルス抵抗性品種の育成を推進。
- コナフブキ、サクラフブキの開発など、ジャガイモYウイルス抵抗性品種の育成に長けた、北見農業試験場との共同研究を開始。
- 共同研究の成果として、現在、優良品種候補として審査中



トヨシロ

北育33号

品種候補のご紹介 北育33号



トヨシロ

北育33号

品種候補のご紹介 北育33号

	北育33号	トヨシロ
ジャガイモシストセンチュウ	◎強	×弱
ジャガイモYウイルス	◎強	×弱
そうか病	○やや強	×弱
打撲黒変	◎強	□中

品種候補のご紹介 北育33号

	北育33号	トヨシロ
枯凋期	8月28日	8月27日
規格内いも重	4091kg	4073kg
でん粉価	14.5%	15.1%

※北海道内の農業試験場の成績を平均した値

品種候補のご紹介 北育33号



2025年12月17日のポテトチップ

最後に

- 北育33号は

- 北海道馬鈴しょ協議会の委託課題として北見農業試験場との共同研究
課題名 「トヨシロ」置き換えの馬鈴しょ品種開発強化 として実施

- 2029年から一般栽培開始予定

詳細なデータは
北育33号の摘録 ⇒
(道総研ホームページ)

